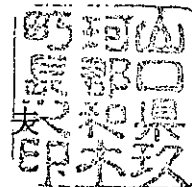




和 都 建 第 270 号
平成 20 年 10 月 14 日

国土交通省道路局長 様

和木町長 古 木 哲



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成 20 年 9 月 19 日付、平成 20 年国道企第 37 号をもって依頼のありました標記のことについて、別添のとおり提出します。

今後の道路行政についての意見・提案

様式①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

山口県和木町

- 1) 道路財源をめぐる動きや国の中期計画の見直しなど、道路行政の先行きについて、不透明感が増している。こうした現状や道路整備の必要性をもっとPRすべきである。道路行政については、マイナス面ばかりが報道されているように思われる。無駄は、徹底的な排除が必要だが、国民の理解が得られるような、わかりやすい説明が必要。
- 2) 暫定税率の廃止の際には、大変な危機感があり、大きく報道された。来年度から道路特定財源が一般財源化されることとなったが、その後の状況が把握できない。できるだけ早く方向性を示すこと。
- 3) 年度末に工事が集中する傾向があり、予算を無駄に使用していると思われがちである。補助金や交付金申請の見直しを行い、早期に着工できるような体制を図ること。
- 4) 用地の取得や財源の関係等で道路整備に年月がかかるのは、いたしかたないが、事業の進捗が遅く、効果が現実として、なかなか現れてこない。

○ 現状；

1) 慢性化した交通渋滞による経済損失

慢性化した国道2号の交通渋滞により、人や物の円滑な移動に大きな支障をきたしている。

2) 安全・安心な道路整備

山口県、広島県の両県を跨ぐ栄橋は、昭和17年に架設されたもので、当時に比べ、交通量は飛躍的に伸びており、損傷の進行や老朽化が著しい。栄橋の近くには、活断層も通っており、大規模地震の発生が懸念されている。また、大型特殊車両が栄橋を通行できないのが現状で、こうした車両は、生活道路に流入しており、騒音や振動等、地域住民の生活に影響が出ている。

また、関々バイパスの開通（平成17年11月）は、山陽自動車道、岩国ICや新幹線岩国駅への最短ルー

○ 課題

1) 岩国大竹道路の建設

国道2号岩国・大竹間の渋滞を緩和するためには、岩国大竹道路の早期建設が必要。国では、事業に着手しているものの、財源の確保が難しく、事業の進捗が遅れている。深刻な状況を早期に回避させるためにも財源を確保し、早期に完成させることが緊急課題。

2) 国道2号栄橋の早期架け替え

栄橋の老朽化は著しい。いつ大規模な地震が発生するとも限らない。国では、事業に着手しているものの、財源の確保が難しく、事業の進捗が遅れている。深刻な状況を打開するためにも財源を確保し、早期に完成させることが緊急課題。

3) 県道北中山岩国線の早期完成、県道岩国大竹線によるアクセス整備

トとして、大変利便性が向上している。反面、国道 2 号の迂回路として、町内を通過する大型車両を含めた交通量が大幅に増加しており、地域住民の安全な暮らしに、少なからず、影響を与えている。

※中市井堰付近の交通量；

完成前＝約 3,200 台/日→完成後＝約 5,300 台/日、
うち大型車；約 180 台→約 440 台、

現在、山口県事業で工事が進められている県道北中山岩国線の早期完成及び、当初から計画のあった、岩国市小瀬両国橋から大竹市油見トンネルへのアクセス整備が緊急な課題である。

21世紀は、地方分権の時代であり、若者の人口定住を促進し、だれもが来て、住みたくくなるようなまちづくり、活気のあるまちづくりを創出することが自治体に課せられた重要な課題になっている。

このため、計画的な土地利用による良好な市街地、道路網、運輸通信体系の整備等によって、生活基盤のさらなる充実に努める必要がある。

道路は、生活の利便性を確保し、産業の振興を図るうえで、欠かすことのできない重要な基盤であり、特に本町においては、幹線道路の渋滞解消や生活道路の改良など、その機能的、質的向上が強く求められている。

このため、国道・県道等広域生活幹線の整備を促進するとともに、都市計画街路や町道の整備等により、道路網の一層の充実を図る。

○ 重点事項 ・地域活力の向上	○代表事例 ・地域高規格道路 岩国大竹道路の建設 国道2号岩国・大竹間は、地域の基幹道路だが、近年、慢性的に交通渋滞が著しい。特に岩国市新港付近では、交通量が36,000台/日を超え、混雑時の運転速度は約10km/時と深刻な状況に陥っている。 現在、大竹市小方から岩国市山手町に至る延長9.8kmの岩国大竹道路が事業化されているが1日も早い完成が望まれている。	○期待する効果や評価等 ・岩国大竹道路は、山陽道大竹ICと直結する高速交通が可能な無料の自動車専用道路として整備が予定されている。現在、渋滞ピーク時には、大竹市と岩国市間の移動に約45分かかるが、完成により、約20分で移動可能となり、大幅な時間短縮が期待される。併せて、国道2号の渋滞が緩和され、通勤等の日常生活や物流等の産業活動に多大な効果が見込まれる。	○ その他
・総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	・国道2号栄橋の架け替え 山口県、広島県の両県を跨ぐ栄橋は、昭和16年に架設された。当時に比べ、大型車両の増加や交通量の飛躍的な伸びにより、損傷は激しく、老朽化が著しい状況にある。また、周辺には、小方ー小瀬活断層が通っており、大規模地震の発生等の際には、落橋も憂慮されている。	・栄橋は、基幹道路でありながら、現在、大型特殊車両の通行が制限されているという状況にある。最近、アメリカで橋梁の落下等の大事故が発生しているが、こうした懸念が払拭される。	

・良好な生活空間・自然環境の形成	・県道北中山岩国線の改良 関々バイパスの完成により、利便性は大幅向上したものの、反面、町内の通過車両が大幅に増加している。現在、山口県において、県道北中山岩国線の道路拡幅事業が進められているが、工事期間中は、通学路となっている歩道等が一部制限されており、早期完成が望まれている。 ・県道岩国大竹線アクセス整備 関々トンネルから大竹市油見トンネルへの最短ルートとして、両国橋の整備 ・町道蜂ヶ峯線の建設 J R 和木駅が平成 20 年 3 月開業した。駅と蜂ヶ峯総合公園を結ぶ道路の建設により、公園の活性化を図るとともに、人口の増加、定住化を図る。また、本町に立地する石油貯蔵施設等の万が一の災害に備え、防災道路を整備する。	・道路の拡幅や歩道の整備により、利用者の安心・安全が確保される。 また、通過車両の時間短縮等の経済効果も期待される。 ・市街地を通ることなく国道 2 号に至る路線として、最短ルートであり、大幅な時間短縮が期待される。 ・本路線を整備することにより、人口の増加、定住、公園利用者の利便性の向上、地域住民の安全・安心の暮らしの確保を図ることが期待できる。	
-------------------------	---	---	--